

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

風は冷たいですが、日差しは温かくなってきた今日この頃です。皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

年末年始に見た Youtube チャンネル「山田五郎 オトナの教養講座」で「大塚国際美術館」を紹介していました。こちらは世界の著名な絵画をタイルにプリントして展示している美術館です。レプリカを観るために、徳島まで行く意味あるかなー？と、ずっと思っていたのですが、これをきっかけに興味をわいて早速徳島まで行ってきました。

公共交通機関だけで行けるのか心配だったのですが、美術館前に停車する高速バスが大阪から何本もでていました。大阪難波から舞子まで1時間、明石海峡大橋を渡って淡路島を縦走するのに1時間弱と、淡路島の巨大さに驚いているうちに、あっという間に大塚国際美術館に到着しました。

元は鳴門の砂を使ってタイルを作り徳島の産業を活性化させたいとの考えからスタートし、さらに世界に向けて徳島のタイルをアピールするために、原寸大でプリントした永久に色あせない絵画を展示しようという構想からできた美術館で、「大塚グループ」の創立75周年記念事業として鳴門市に1998年に設立されたそうです。

現在、西洋名画1,000余点が展示されており、第二次世界大戦で焼失した「芦屋のひまわり」も含めてゴッホのひまわりが7点展示されていることや、レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐の修復前と修復後を観られることに期待が膨らみました。

館内に入って最初の展示、システーナ礼拝堂の天井画と正面壁画「最後の審判」を再現したシステーナ・ホールでは丁度、美術館スタッフが天井画の解説をしていました。鑑賞ルートは約4キロもあり、全部を見て回るのにどれくらい時間がかかるかわからないので、要所要所で行われているスタッフ解説はスルーすることにして、興味がある絵はじっくりと、そうでない絵はちらっと横目に眺めながら、回ることにしました。

順路は、古代・中世→ルネサンス→バロック→近代へ、時代と共に進んでいきます。絵の主題は宗教画から貴族の絵にかわり、庶民や風景が描かれるように変化していくところも面白かったですし、前述のシステーナ・ホールやスクロヴェーニ礼拝堂は、原寸大の迫力満点でとても素敵でした。原寸大の迫力といえば、館内最大621×979cmの「皇帝ナポレオンと皇后ジョゼフィーヌの戴冠」も素晴らしかったです。

逆に、それほど大きくないサイズの絵画は（もちろん美しいのですが）、なにが物足りないような、複写では写し取れない、目に見えないオーラのようなものが欠けているような印象を受けました。とはいえ、受胎告知の絵を集めた部屋や、ヴィーナスや女神の絵を集めた部屋など、同じテーマの絵を一度に見られることや、ゴッホのひまわり7点を一堂に、それも原寸大で観るといような体験は、現地に行ってもできないことです。たとえレプリカであっても、書籍やインターネットで見るよりは、ずっと価値があるかもしれないと考えを改めました。

休憩をはさみつつ6時間たっぷり鑑賞しました。またの機会には、スタッフ解説もじっくり聞いてみたいです。そして叶うことならば現地で本物の絵を見てみたいものです。

当社も4月から新年度で、おかげさまで第33期を迎えることとなります。これまで同様に、御社と御社に関わる人々を幸せにできるようなお仕事をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

皆さま、どうぞお身体をたいせつに、健やかに過ごしてくださいませ。



システーナ・ホール



スクロヴェーニ礼拝堂



ゴッホのひまわりのお部屋



ナポレオンの戴冠式



ヒエロニムス・ボスが好きになりました

今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしくお願いいたします。